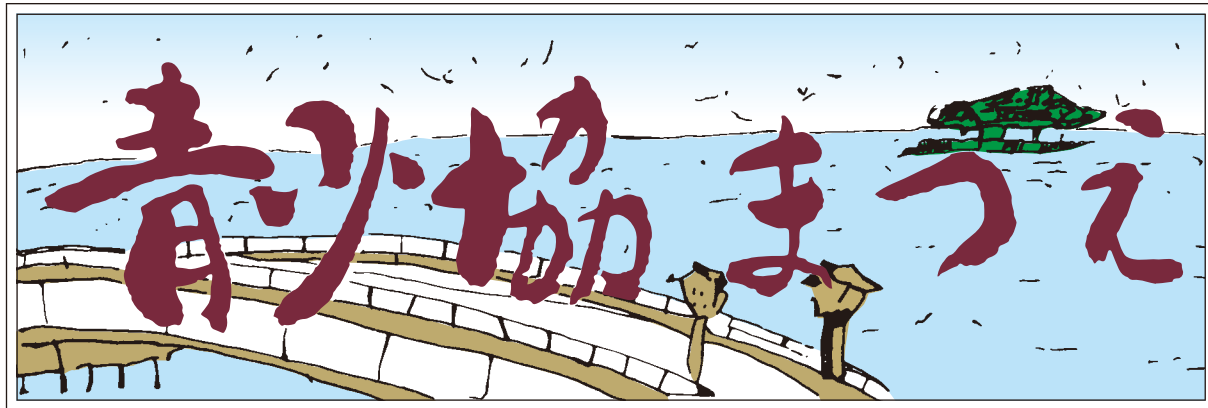




松江市
青少年協
紙機

No.52

発行
令和7年
11月

観客から寄せられた言葉は、演劇を通して地域の人と若者の思いが繋がった証です。

来場者の感想

「ふるさと松江を大切にする若者の姿、とても頼もしく思いました」「脚本も衣装も素晴らしく、言葉の一つひとつに感動しました」「松江の良さをあらためて実感できました」「若い人たちの活動が嬉しかったです。これからも応援します」

今夏も猛暑となりました。四十度を超える日もあるなど、これまで経験したことのない暑さが続きました。そのような中、各地区青少年協では工夫を凝らしながら、様々な事業を実施していただきました。ご尽力くださった関係者の皆様に、心よりお礼申し上げます。

さて、今年一月には、青少年協研修会で講演いただいた演劇グループ「あめいろ」による公演「ギャルと水都と吉晴と」が上演されました。大雪にもかかわらず、多くの方が来場され、若者たちの躍動感あふれる、心のこもった演技に会場全体が魅了されました。松江を大切に思う気持ちが一ひとつの台詞や表情から伝わり、観客の胸に深く響きました。



松江市青少年育成連絡協議会
会長 藤原 恵子

繋がりがあって

先日、青少年支援を目的とする連絡会に参加しました。そこで話題になったのは、若者支援のネットワークづくり。団体ごとの活動はもちろん大切ですが、お互いが繋がり、広い視点で若者を支えることが、より豊かな地域づくりにつながると感じました。

「あめいろ」は、松江北・南・商業・工業・安来・情報科学（結成当時）の六つの高校の演劇部員有志が学校の枠を超えて集まり、それぞれの個性を生かしながら活動をしています。近年は青少年協の活動も、地域の枠を超えた協働が増えています。互いの特性を尊重し合い、高め合いながら、より充実した活動が広がっています。

こうした「枠を超える」活動は、全国各地でも広がっています。例えば、兵庫県芦屋市で二十六歳という若さで市長に就任した高島峻輔さんも、高校時代から地域や社会に関わる活動に積極的でした。東日本大震災をきっかけに、同年代の高校生たちと福島を訪ね、復興プロジェクトに挑む仲間と出会い、その姿に大きな刺激を受けたそうです。その経験が、彼の進む道を「地域のために働く」方向へと導いたのです。

高島さんは、こんな言葉を残しています。

「どうか、学校の外にも出てみてください。授業やテストは大切ですが、新たな世界や人との出会いが待っています。私が地域のために働く、という人生の道しるべを立てられたのは、様々な世界と出会えたおかげです」

各地区青少年育成協議会では

こんな事業をしています！

こどもの健全育成研修会

小学校区・中学校区で
講演会・意見交換会等の
研修を実施しています

古江



ジュニアリーダー実践
「ブルブル・ドキドキ大作戦」

法吉



松江一中校区
こどもの健全育成研修会①

少年見守りパトロール事業

こどもたちの
安全のため、
パトロールや
見守り活動を
実施しています

古江



青色回転灯
自主防犯パトロール活動

乃木



合同パトロール

東出雲



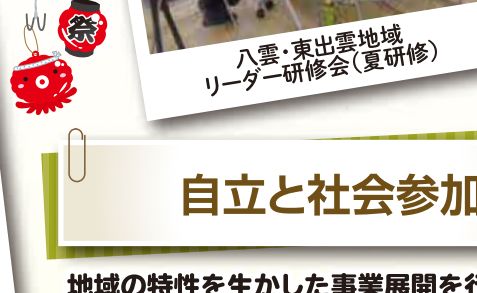
ジュニアリーダー実践
「寿スゴロク」

秋鹿



あいか夏まつり
中学生ブース出店

祭



八雲・東出雲地域
リーダー研修会（夏研修）

乃木



まつえ湖南学園
地域リーダー育成研修会

自立と社会参加

地域の特性を生かした事業展開を行っています



乃木地区学校・
警察・青少年協連絡協議会

雑賀



さいかキッズクラブ
秋のおでかけ



さいかまつり
中学生ボランティア

白湯



白湯公民館まつり
（中学生ボランティア）



松江市大運動会への
競技参加

家庭・地域における 啓発活動

- 青少年の非行・被害防止全国強調月間 7月
- 子供・若者育成支援推進強調月間 11月
- しまね家庭の日 第3日曜日

令和7年度

松江市青少年育成連絡協議会 研修会

◎発表内容

五月十七日(土)に開催した研修会では、演劇グループ「あめいろ」副会長の竹本莉乃様、役者の野々内詩織様と藤田響様に発表いただきました。

「想いをカタチに」演劇で伝える、ふるさとの魅力」をテーマとした発表では、結成のきっかけから現在に至るまでの歩みが語られ、地域とつながる活動の意義が改めて伝わってきました。

コロナ禍で制限された学生生活の中、「今しかない時間を楽しみたいものになりたい」という思いから、ふるさと松江の地域資源を題材に演劇を企画。高校生が仲間を募り、学校の垣根を越えて集まった有志の行動力と、それを支えた地域の大人たちの存在が印象的でした。

松江城と堀尾古晴を題材にした昨年度の活動の中では、情報共有不足やスケジュールの遅れなどの課題にも直面。公演延期という決断を経て、体制を立て直し、無事に公演をやり遂げました。

こうした取組からは、地域の力に支えられながら、課題に向き合い、前に進み続ける若者たちの姿が感じられました。演劇を通じて、ふるさとの魅力を伝えようとする熱意と工夫は、貴重な学びになりました。

◎登壇者

演劇グループ「あめいろ」

副会長 竹本 莉乃様

役者 野々内 詩織様

役者 藤田 響様



▲竹本莉乃様



▲野々内詩織様



▲藤田響様

地域環境浄化活動

黄色いポスト推進事業

松江市では市内24か所に「黄色いポスト」を設置して、青少年に有害な出版物の回収を実施しています。



「黄色いポストとは」

地区の青少年育成協議会や地域の皆様の協力により設置された「有害図書回収専用ポスト」です。こどもたちの健全育成を目的に、有害な本・ビデオ・DVDなどを回収する取組で、30年以上続いています。回収数は近年、横ばいの傾向が見られますが、今後も継続して回収活動に取り組んでまいります。

令和6年度は3,341冊の有害図書類を回収しました。また、昨年度に

続き、「株式会社長岡塗装店」様に城北・乃木・八雲地区の3基のポストをボランティアで塗り直し・修繕していただきました。感謝申しあげます。



▲塗り直し・修繕前



▲塗り直し・修繕後

有害図書の回収場所

白 湯	天神町JIR高架下
	スティック東側 駐輪場屋外
川 津	大橋南詰バス停
	JALしほ川津支店
朝 日	川津車庫バス停
	みしまや学園店
津 田	シャミネ駐車場出入口
	津田ふれあいセンター階段下
乃 木	東津田三区町内会館
	乃木駅前西
大 庭	旧Yショップ前(田和山)
	八重垣団地バス停
城 北	ジュンテンドー大庭店
	城北公民館
城 西	ラパン城北店
	須衛都久神社
城 東	母衣町ポケットパーク
	みしまや さいか店前
雑 賀	みしまや 春日店
	ホック黒田店
法 吉	古志原三区集会所前
	八雲複合施設
古志原	旧島根支所
	美保関公民館
八 雲	
島 根	
美保関	

(令和7年10月現在)

こどもの健全育成実践発表

～実践発表の中から活動の一部を紹介します～

とき:令和7年3月15日(土) ところ:松江市鹿島公民館

モデル事業紹介

やりたいことが見つからない若者と共に

宍道地区青少年育成協議会

高橋 椿太郎

(一般社団法人 学びDesign)

宍道地区で行った「生き方トーク」では、地域の多様な大人が自身の経験や価値観を語り、生徒と対話を重ねました。これまでの活動を振り返ってみると、現在「やりたいことがない」という生徒が増えていると感じます。実際に関わる中で、それは意欲の欠如ではなく、社会の変化によって、情報過多や体験の不足により、一人ひとりが持つ選択肢が見えにくくなっていると思います。活動の中で、大人と対話することで、生徒は自分の興味や得意なこと、その兆しを見つけ始め、小さな関心を言葉にする姿も見られました。キャリア・ふるさと教育は、将来を明確に決めることではなく、まず自分を知り、可能性を広げるきっかけづくりであると実感しました。これからも、地域一体となつて生徒の多様な可能性を信じて見守っていきたいと思います。



「生き方トーク」の様子

湖北中学校区で広がるジュニアリーダーの輪

大野地区青少年健全育成協議会

会長 加藤 恭浩

大野地区青少年健全育成協議会では秋鹿古江地区の青少協と連携し、三地区合同のジュニアリーダー研修会を継続的に実施しています。湖北中学校に通う中学生達がジュニアリーダーとして地域を見つめ直し、地域を元気にする計画を考える研修会です。宿泊研修としてサン・レイクに集い、計画だけではなく自分たちが各地域の一員として地域を盛り上げる実践活動を行うことを想定しており、発案された事業は各地域の特色も考慮し、いかに盛り上げようかと考える中学生達の思いは素晴らしい成果に繋がっています。また合同であることで生徒同士が他地区の計画を知り、互いに刺激を受けながら自分の住んでいる地域を深く考える時間となっており、自らが未来を担う存在としての意識が高まるこうした取組は今後も継続し、次世代のリーダーとして地域との繋がりを意識しながら成長していくことのきっかけになればと思っております。



ジュニアリーダー研修会の様子

インクルージョン社会を目指して

川津地区青少年育成協議会

副会長 福田 悟

(しまね四季の学び舎)

令和6年度も前年度に引き続き、さまざまなスペシャルニーズのこども達に自然体験活動を思い切り楽しんでもらおうと「インクルージョン・ジュニア高山登山ガイド養成講習会」を「津田子どもを育てる会」との共催により開催しました。

特に令和6年度は、インクルージョン社会形成により寄与できるように「フード・ダイバシティ(ビーガンランチ)」や「SDGs(ジェンダー平等の実現、気候変動への気づき)」などの視点にも着目した講習会内容となりました。当日は全員元気で高山登山を終え、十四名の「ジュニア・高山登山ガイド」が誕生しました。今後、「インクルージョン・ジュニア登山ガイド」として、地域での自然体験活動において、いっそうの活躍を期待したいと思います。



視覚障がい者・児童登山サポート技術研修の様子